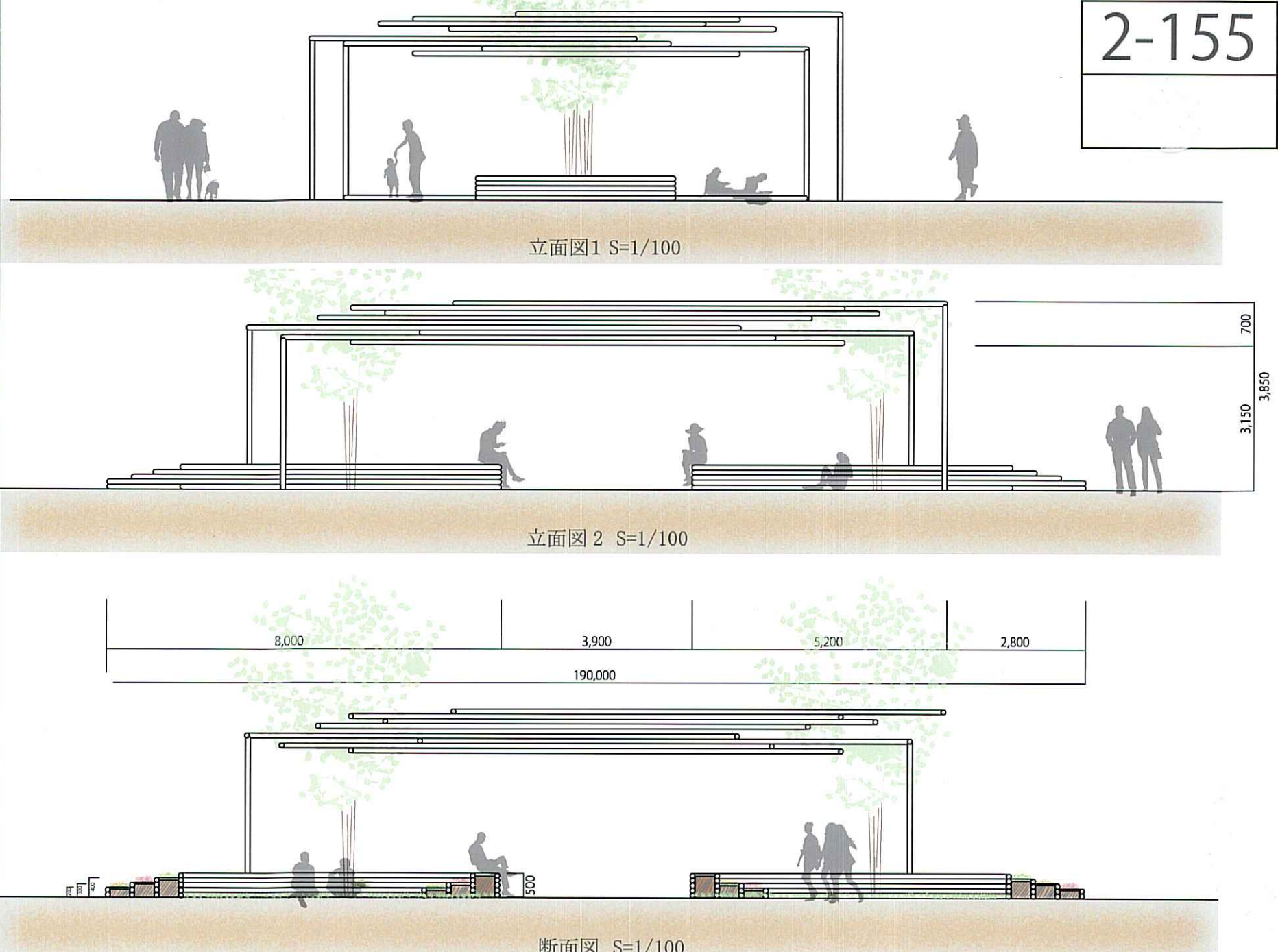
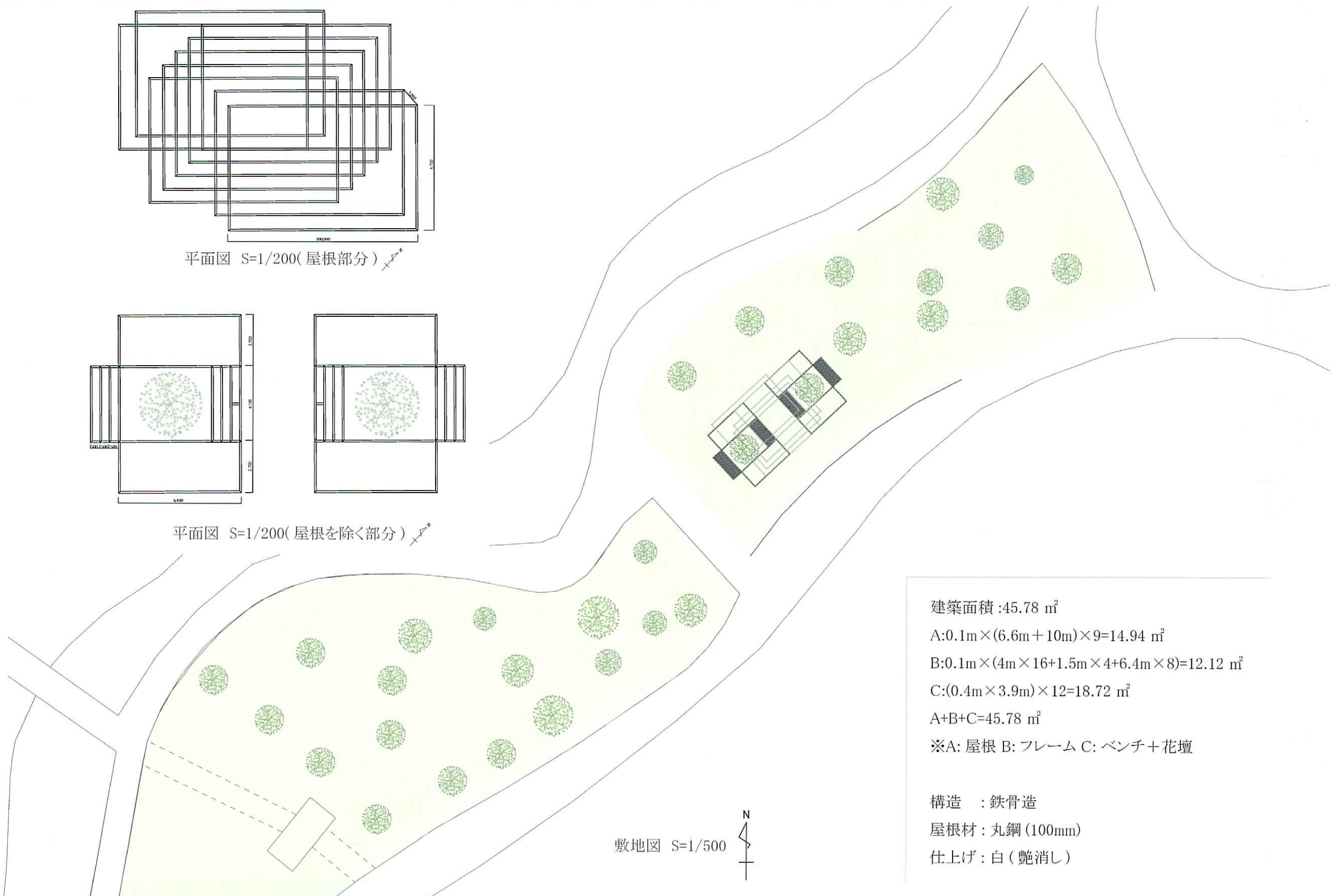
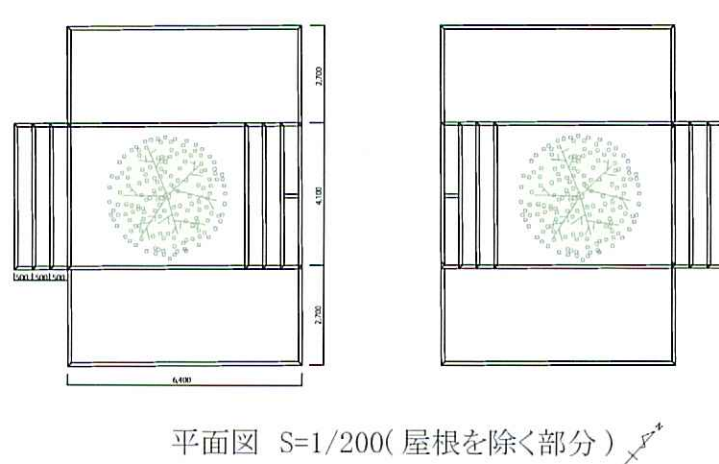
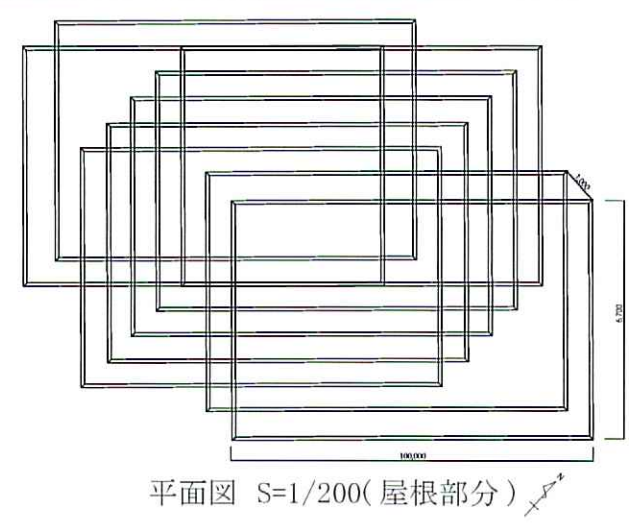


変幻

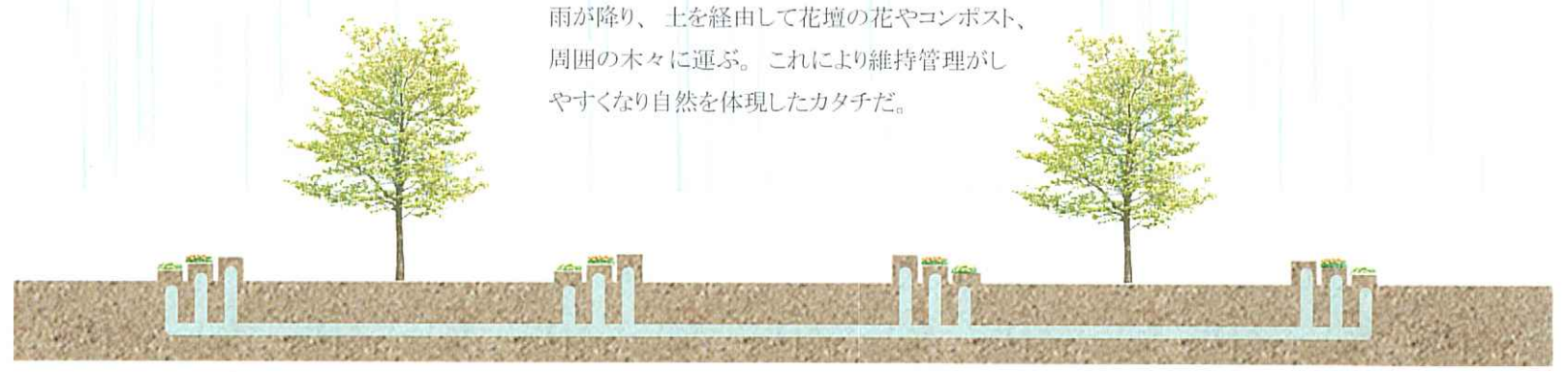


正方形ではなく長方形を9つ重ね、すべて規則的にかつ不規則に見えるようにずらし一つの構造物を創った。一見、角が多く威圧的に見えるが葉の重なりをイメージしており、ずれた部分から木が生え人工物であることを強調しつつも調和を図っている。ずれから生まれたスペースはベンチにもなり花壇にもなった。木が陰となり 100mm の丸鋼がそれを助ける形で心地よい日陰になり目を上げれば木々の葉と青空が見える。この敷地には、運動をする人、親子、老夫婦など幅広い世代の方々を通る場所だ、なのでできるだけ入りやすく木々が少なく建設しやすい東側の敷地にした。この敷地は開放的なため自由な空間だったが、自由すぎるがゆえに目的を失っていた、そこでエリアを線で区切ることによって開放性を失わずに目的を与えることができた。段差はできるだけ少なくし四つのエリアは芝生にして「座る」、真ん中をベンチにして「座る」それぞれ違う憩いの場にしようと考えた。



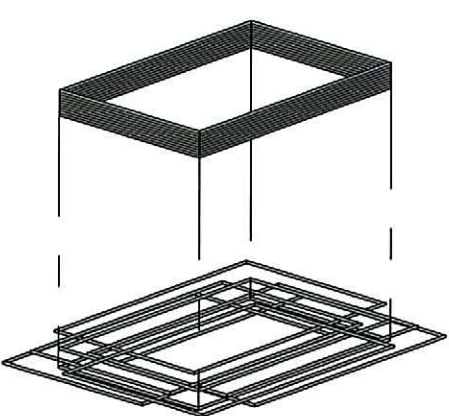
水の循環システム

雨が降り、土を経由して花壇の花やコンポスト、周囲の木々に運ぶ。これにより維持管理がしやすくなり自然を体現したカタチだ。



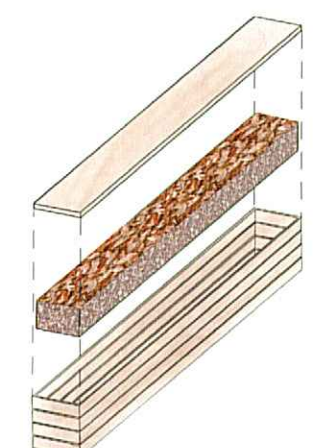
屋根の分散

100mm の丸鋼を黄金比で囲み、それを規則的にかつ不規則に見えるよう X 軸、Y 軸に分散して屋根という概念を超えた、一つの構造物を創った。日の当たり方を考慮し、陰ががまるで線のようにして、それが集合し手完成した。



コンポストベンチ

敷地に多く落ちていた葉をベンチにあるコンポストへ入れることにより 200 日の周期で落ち葉堆肥が出来上がる。その堆肥を使うことで微生物が活発に活動し、地力が維持され花壇の花だけではなく周辺の木々や草がのびのび育つ。これらのサイクルは半永久的に繰り返すことができ、環境に優しい。コンポストベンチは木で作られており、通気性に優れている。



- 建築面積 : 45.78 m²
- A: 0.1m × (6.6m + 10m) × 9 = 14.94 m²
- B: 0.1m × (4m × 16 + 1.5m × 4 + 6.4m × 8) = 12.12 m²
- C: (0.4m × 3.9m) × 12 = 18.72 m²
- A+B+C = 45.78 m²
- ※A: 屋根 B: フレーム C: ベンチ+花壇
- 構造 : 鉄骨造
- 屋根材 : 丸鋼(100mm)
- 仕上げ : 白(艶消し)